

宮城県大崎保健所栗原支所 感染症発生動向調査情報

令和5年11月30日発行

1. 発生動向

上段は発生患者数、下段は定点当たり

疾病	疫学週				判断基準(定点当たり)		
	44週	45週	46週	47週	警報レベル		注意報レベル
	10月30日～11月5日	11月6日～11月12日	11月13日～11月19日	11月20日～11月26日	開始基準値	収束基準値	基準値
インフルエンザ#	25 8.33	19 6.33	18 6.00	63 21.00	30	10	10
新型コロナウイルス感染症#	7 2.33	0 —	3 1.00	1 0.33	-	-	-
RSウイルス感染症	0 —	0 —	0 —	0 —	-	-	-
咽頭結膜熱	0 —	1 0.50	1 0.50	2 1.00	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1 0.50	0 —	1 0.50	1 0.50	8	4	-
感染性胃腸炎	9 4.50	9 4.50	11 5.50	10 5.00	20	12	-
水痘	0 —	0 —	0 —	1 0.50	2	1	1
手足口病	0 —	0 —	0 —	0 —	5	2	-
伝染性紅斑	0 —	0 —	0 —	0 —	2	1	-
突発性発しん	2 1.00	0 —	0 —	0 —	-	-	-
ヘルパンギーナ	0 —	0 —	0 —	1 0.50	6	2	-
流行性耳下腺炎	0 —	0 —	0 —	0 —	6	2	3
急性出血性結膜炎	定点設定なし				1	0.1	-
流行性角結膜炎	定点設定なし				8	4	-
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	定点設定なし				-	-	-
無菌性髄膜炎	定点設定なし				-	-	-
マイコプラズマ肺炎	定点設定なし				-	-	-
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	定点設定なし				-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	定点設定なし				-	-	-
マイコプラズマ肺炎(小児科)	0 —	1 0.50	0 —	0 —	-	-	-
川崎病	0 —	0 —	0 —	0 —	-	-	-
不明発疹症	0 —	0 —	0 —	0 —	-	-	-

栗原支所管内定点数: #は3施設。それ以外は2施設

2. 施設対応状況 (過去2週間における支所対応状況) ◎:複数対応中、○:対応施設あり、-:対応無し

施設区分	保育所	高齢者・障害者入所施設	医療機関
対応状況	◎	—	—
備考	インフルエンザ		

*「1.発生動向」の解釈について

- ・上段は圏域全体で一週間に診断した患者数
- ・下段は一つの定点(医療機関)において一週間に診断した患者数
- ・下段の定点当たりの数値を表右側の判断基準と照らし合わせて評価してください。

3. 新型コロナウイルス感染症の段階適用状況

国の基準に基づき、在院者数に応じた本県の段階(0～Ⅲ)を定め、段階に応じて即応病床数を設定しています。

	段階	適用期間	県の在院者数
今週	0	11/29～12/5	61人
前週	0	11/22～11/28	73人

※県の在院者数は毎週水曜日時点

4. 栗原支所より

【定点把握対象疾患】

- ・インフルエンザは前週より増加し、注意報レベルを超えました。
- ・感染性胃腸炎は前週より減少しています。

【集団発生情報】

2か所の保育施設において、インフルエンザの集団発生がありました。平時からの手洗い、手指消毒、換気等の感染対策を徹底しましょう。

【感染症コラム～感染性胃腸炎(ロタウイルス)～】

- ・多種多様な原因による症候群ですが、ロタウイルスは乳幼児の重症急性胃腸炎の主要な原因病原体です。
- ・昔は、「乳児冬季白色下痢症」と呼ばれていました。
- ・これまでは冬季に多く報告されていましたが、近年は春先に移行してきました。
- ・主な感染経路は人から人への糞口感染です。感染力が極めて高く、汚染された水や食物等を触った手からウイルスが口に入って感染が成立するとされています。
- ・通常2日間の潜伏期間で下痢、嘔気、嘔吐、発熱、腹痛を主症状とし1～2週間程で改善します。小児では、脱水に注意が必要です。
- ・脱水の補正など、対症的な治療を行います。
- ・小児においてはワクチンによる重症化予防が有効ですが、生後15週以内に初回の接種を済ませる必要があります。

大崎保健所 栗原支所 疾病対策班
☎0228-22-2117 ☎0228-22-7595
HP:<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khhwfz/ktindex.html>